

令和〇〇年度山口県養護教諭研修会（第〇回）

期日：令和〇〇年〇月〇〇日（〇）

場所：〇〇〇〇〇〇〇〇

テーマ

「〇〇〇〇〇〇」

開会行事 10:00～

あいさつ 教育庁 学校安全・体育課
教育調整監 〇〇 〇〇

あいさつ 山口県養護教諭会
会長 〇〇 〇〇

講義1 10:30～12:00

「実践研究の進め方、まとめ方」
養護教諭が行う「研究的実践」に期待して
愛知教育大学
後藤 ひとみ

I はじめに

- 養護教諭の「実践」とは・・・
- 養護教諭の「研究」とは・・・

II 養護教諭による実践研究の実態

III 養護教諭に求められる研究とは

1. 上位概念

経験から共通の理論を導き出したり、その理論を実証したりするプロセスである。

2. 必要な条件

- ①様々な事象の整理・分析を通して、それらの間にある関連を明らかにすること
- ②他の人にも行えるような再現性があること

③一般化するために法則性や理論性を追求すること

④養護実践に役立つものであること

IV 実践記録の書き方

- ① 記録をもとに数量化して実態を捉える
- ② いつ、誰が、何をなどの事象を捉える
- ③ 何をしたかという対応のプロセスを捉える

何をしたら、どう変わったかという変化を捉える

⑤ 他の人との情報の共有化をする際に役立つ

V “実践的研究” から “研究的実践” へ

VI 養護教諭による実践研究の進め方

1. いい実践なのに「残念・・・」

- ① 臨場感あふれる内容が書かれていて思いを感じるが、文章に筋がなく、理論的でない。
- ②目的やねらい、研究仮説に対応した考察になっていない。
- ③手だてや計画が箇条書きに並んでいて、これらの系統性が明らかではない。
- ④盛りだくさんの取り組みが報告されていて、その中の重点がどこにあるのか、どこに取り組みの山場があったのかが見えないままに報告されている。

2. 実践を研究的にまとめるまでの道筋

- ①研究計画を立てて、その計画に沿って実践を進め、成果をまとめる場合

②すでに行った実践を振り返りながら事後にまとめる場合

VII 養護教諭による実践研究のまとめ方

1. 養護教諭の実践を研究的にまとめていくためのポイント

- ①書くこと、公表すること
- ②まずは記録の再整理
- ③実践をまとめるときの基本型
- ④実践における目的の書き方
- ⑤実践の方法の整理
- ⑥実践が見えてくるような結果のまとめ方
- ⑦発展性のある考察の仕方
- ⑧先行研究の使い方

2. 実践をまとめるときの基本型

- ①「目的—方法—結果—考察—まとめ」
- ②方法の書き方
- ③結果の示し方
- ④考察の仕方
- ⑤要点のまとめ方
- ⑥文献の載せ方

VIII 研究的実践にむけて

養護教諭の専門性から実践を問い、蓄積の中から共通項を見いだす。

学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって子どもの発育・発達の支援を行う特別な免許を持つ教育職員である。

「学校における教育活動を通じた心身の健康づくりによって子どもの発育・発達を支援するという分野、こういう分野に精通している人が養護教諭」「養護教諭の専門性は、学校の教育活動の中で心身の健康をつくりながら、子どもを育てる。」これが養護教諭の専門性。

日々の実践をまとめること、実践を経験

値～「知」へと発展させること。それがまさに養護教諭が養護教諭であり続けていくための必要条件。

「研究をまとめる」ということにとどまらず、むしろ「研究」ということを意識しながら実践をしていく、逆方向の「研究的な実践」ということをぜひ意識しながら努力を重ねていただきたい。



記録のポイント

- ・「あいさつ」は、挨拶をした人の肩書きと名前のみを記載する。
- ・講師が話した大まかな内容を箇条書きでまとめる。(話したことの全てをまとめず、話の流れが分かる程度でよい。)
- ・記録と IC レコーダーで録音した音声データを USB に保存する。